

子どもたちの明日

Children, Our Future

2019年7月

127号

目次

- ・「村の幼稚園」を就学前教育普及のモデル事業にしたい 1頁
- ・自主運営に移行した幼稚園の保育者から便りがありました 2頁
- ・「国際子どもの日」の行事 4頁



1

「村の幼稚園」を就学前教育普及のモデル事業にしたい

5月25日、CYRの定時総会の後、ブノンペン事務所長のチャン・スレイが「村の幼稚園」事業の今後の目標をお話ししました。カンボジア人だけで活動をするようになって2年。「村の幼稚園」事業を自ら推進してゆく手ごたえを感じているようです。

CYKはこれまでに21ヶ所の「村の幼稚園」を開設、うち、10ヶ所は既に地域で自主運営されています。継続運営の鍵となったのは、①地域の主体的な関与、②保育者の自信、そして、③運営資金の確保です。①に対しては、園舎用地や保育者の選定は地域が行い、4年目から自主運営する覚書を締結。3年の間には委員会や保護者の協力で一緒に問題を解決しながら強固な協力関係を築いています。②への取り組みはCYKしか行っていないことですが、保育チームが州や郡の幼稚園担当者と協力して毎月モニタリングを続け、保育者は、開園から3年の間には基本的な幼稚園の運営の仕方などを理解し、子どもや村人から信頼さ

れるまでに成長していきます。③については、保育者の給与が地区評議会から全額払われるようになり、保護者からの協力金の積み立てが運営費に充てられています。

こうしたCYKの多角的な取り組みに追い風となるのが、2018年に始まった教育省の新しい制度です。6ヶ所の「村の幼稚園」が政府の基準に沿った地域幼稚園として認定され、保育者の給与が政府から支給されるようになりました。全ての「村の幼稚園」が認定を得られるよう、政府の評価基準をよく理解し、足りない点をサポートしていきたいと思っています。今年度は州と郡のコアトレーナーによる、保育内容、保育教材の整備、子どもの集中力をどう高められるかなどに加え、事務記録の取り方などの研修も計画しています。

CYKが推進する「村の幼稚園」は、カンボジア政府にとっても、州、郡、地区、村のレベルで、地域の関心に根ざした幼児教育のよい実践例であると考えて

います。「村の幼稚園」事業を、就学前教育の普及に役立つモデル事業にしていきたいです。

会場から多くの質問がありました。

——村の子どもたち全員が「村の幼稚園」に行けるのでしょうか。

希望者は受け入れています。申し込み50人余りになってしまい、困ったこともありました。

——協力的でない親への対応はどうしていますか。

幼稚園に通う子どもたちの様子が一番説得力をもっています。自分は幼稚園なんか行っていないけれど、生きていく上には何の支障もなかったと話していたおじいさんがいました。しかし孫が幼稚園に行きはじめて、言葉遣いが丁寧になり、楽しそうに幼稚園の話をする成長ぶりに、今では近所の子どもたちを誘って幼稚園に行くように勧めています。

——スレイさんご自身のCYKとのかかわりについて

CYKでは保育専門家から、保育の仕



認定NPO法人

幼い難民を考える会

CARING FOR YOUNG REFUGEES

事のこと、働き方などとても多くのことを学ばせてもらいました。私自身は、保育の勉強をしたことはないのですが、CYKの仕事を通して、実地で子どもの成長や幼児期が大切な事、その時のケアがとても大事だということを学びました。

——どうしてCYKで12年余りも仕事を続けようと思ったのですか。

CYKの活動は、カンボジアの国にとっても子どもにとっても、とても大事だと思ったからです。そしてたくさんの方の日本の皆さまからのご支援があるからです。一人でも多くの子どもに教育を受けるチャンスをつくりたい、そのためにもっと「村の幼稚園」を増やしていきたいです。みなさまのご支援をどうぞよろしくお願い致します。



2 自主運営に移行した幼稚園の保育者から便りがありました

私は31歳、ナオ・スレイモムと申します（生年月日：1988年11月8日）。現在カンダール州キアンスバイ郡ディエット地区スダウカンラエンプラム村に住んで、「村の幼稚園」の保育者として働いています。

2008年に私は高校卒業試験に合格し、プノンペンで勉強を続けたかったのですが、両親が私の大学の学費を払えなかったので、先生になる試験を受けるように言われました。その当時、私の一番嫌いな仕事は先生になることでした。小さい頃、「子どもが勉強できないのは先生のせいだ」「子どもがよく勉強できるのは自分の家族の頭が良いからだ」など先生の悪口を言ったり、先生に文句を言ったりするのをよく聞いていたからです。お父



さんに言われたので、しかたなく、試験に申し込むことにしました。その申込書には地区長のサインが必要です。地区長のサインをお願いしに行く日は大雨で、お父さんは申込書をバイクの座席の中に入れました。家に着いて、開けたら、申込書が雨水に濡れたので、書類の端のところが破れました。お父さんと喧嘩になり、半日トイレの中に隠れて、泣きました。申込書は干して乾かしてもきれいにならなかったの、州の教育局に先生の試験を受けることを断りました。

その後、プノンペンで売り子としてバイク販売店で働きながら、Economic Development Institute（経済開発大学）で英語を勉強しました。その後チャックアンレークロムの工場でグループリーダーのアシスタントと

してしばらく働いてから、母校の先生が英語学校を開校したので、英語の先生として働きました。

2015年に兄弟たちの勉強が忙しくなり、両親の畑を手伝えなくなりました。両親は大変そうでしたし、私の給料もあまり多くなかったの、私が仕事をやめて、家へ帰りました。その時、地区長と地区評議会メンバー（女性と子どもの担当者）が私の家まで来て、「村の幼稚園」の先生になって欲しいと頼まれました。先生の仕事は嫌いですが、地区長に頼まれたので断りにくいし、村で仕事しながら、両親の畑の仕事を手伝えるからと思って、引き受けました。

幼稚園で働き始める前にアルン先生（プノンペン事務所の保育アドバイザー）の研修に参加し、特に子どもと

のコミュニケーションの取り方、子どもへの教え方などを丁寧に教えて頂きました。開園した時は子どもが多くうさかったし話を聞かなかったの、気に入らなりましたが、実地（OJT）研修の時、アルン先生が直接子どもに教える姿を見て、自分も頑張らなければならないと感じました。だんだんと慣れてきて、子どものことが好きになり、子どもひとりひとりの性格がわかってきて可愛いと思うようになりました。子どもは心がきれい、遊びが好き、時々うるさいですが、本当のことしか話しません。自分の教える子どもは賢いしよく勉強ができる、勇気を持って人の前で話ができるようになりました。そして歌を歌えるようになり、文字や数字を覚えて自分の名前まで書ける子もいます。また態度が変



化して、言葉遣いが良くなりちゃんと挨拶ができるようになりました。大人と一緒にいる時よりも子どもと一緒にいる時の方が楽しく、親しみ、安心、心が温かいと感じています。特にCYKの温かい支援、校長先生と地区長・村長の協力もあって、もっと安心できるようになり、先生としての仕事が大好きになりました。

先生の仕事で楽しいのは「子どもが楽しく遊ぶ姿を見る時」「保護者から褒めてもらえる、信用してもらえること」「委員会や村の人たちが協力し、応援してくれること」「尊敬されること」などです。

子どもは自分の親よりも先生の言う事を聞くと保護者に言われました。ある子は缶ジュースが大好きで、いくら缶ジュースが健康に良くないと言っても聞かないので、お母さんが私に頼みに来ました。私はこの子に缶ジュースを毎日飲んだら、健康に良くないし、体が成長しない、勉強にも影響がでる、ずっと飲み続けて大人になったら

賢くなる等々と説明したら、その子も理解し、缶ジュースを飲むのをやめました。もうひとり、5歳になってまだお母さんの母乳をやめられない女の子がいました。工場の前でサトウキビのジュースと肉団子を焼いて売っているお母さんはとても困って、私に頼みに来ました。私はこの子にいろいろ説明し、褒めたり、叱ったりしたら、母乳をやめて、ミルクを飲むようになりました。もうひとり村長の孫は使う言葉がよくないし、携帯のゲームに夢中でした。携帯のゲームで遊んでいると、誰の言うことも聞かない。村長に頼まれて、その子にいろいろ話しました。言葉遣いの悪い子は可愛くない、携帯のゲームで遊びすぎたら目が悪くなるし、頭が悪くなる。また夜になるとオバケがでてくる。オバケはゲームで遊んでいる子が好きで探していると話したら、以後、その子は携帯のゲームであまり遊ばなくなり、言葉遣いも良くなりました。子どもの変化を親から聞いた時、とても嬉しかった。

あっと言う間に3年間がすぎ、CYKの支援が終了しました。CYKがこの「村の幼稚園」を運営委員会・地区評議会に移行した時、ちょっと心配になりました。ところが変わりなく、引き続き校長先生、地区長、村長、地区評議会の皆さんが応援し、協力していますので、安心しました。地区評議会は毎月給料（月40万R＝US\$100）を銀行に振り込んでくれます。そして保護者も全員協力金を払うし、信用してもらえるので、とても嬉しいです。地区評議会、郡や州の教育局が地域幼稚園の規準に沿っているとして認可の申請をしてくれました。皆さんの応援で、心が温かくなりました。これからもCYKをがっかりさせないように頑張ります。地域の良い先生として地域の子どもたちに続けて教えるように努力します。

来年、地域の自主運営に移行するカンダール州のスバイドムナック村では、新しいゲームを取り入れて「国際子どもの日」の行事を開催しました。ココナツの殻をはいて競争するゲームと椅子取りゲームです。

ココナツの殻を使ったゲームは昔、村でよく遊んでいたゲームです。州の幼児教育担当者がこのゲームを提案して、CYKの運転手が市場でココナツミルクを売っているところから殻をもらい半分に切って、紙やすりできれいに削ってから紐を付けました。もう長い間この村でもこの遊びをしていませんでした。親たちは、このゲームがとっても懐かしい、自分が小さい頃に村でよく遊んだと話しました。先生も、子どもが楽しそうだったので幼稚園でまた遊ばせたいとのことで、作り方を教えました。ダンスをしながらの椅子取りゲームはお正月に大人がやっていますので、皆ルールは分かっています。面白いゲームなので人気があります。

行事が終わってから保護者と委員会を開き、幼稚園へ通いだしてからの子どもの変化や成長などを聞きました。ある子は、以前は物を食べた後、汚れた手を自分の服で拭いたり、ゴミをそのままあ

ちこちに捨ててしまったりしていたのですが、幼稚園に入ってから、汚れた手を水で洗うようになりました。あるお父さんは、自分がお酒を飲んでちょっと悪い言葉を使ったら、子どもに「お父さん、その言葉を使っちゃいけない、可愛くないと先生に言われたので、直してください」と言われました。ほとんどの親は、自分の子どもが幼稚園に通うようになってから、ちゃんと挨拶するようになり、丁寧な言葉を使えるようになり、家の仕事を手伝うようになったと気づいています。そして時々歌も歌っている。褒めたら、もっとたくさんの歌を次々歌ってくれたと親が話していました。

地区長は「基礎的な教育を受ければ、続きもうまく勉強できるし、勉強が好きになって、大学まで出たら、良い仕事につけます。現在村ではほとんどの子どもが小学校か中学校までしか行っていません。将来この子どもたちを大学まで勉強させて、教師、医師、弁護士などになって村を発展させて欲しいです。村や国が発展するためには良い人材が必要です。皆さんは今工場で働いて生活するために必要な収入があるので嬉しいと思いますが、子どもの教育を忘れないでください」と話しました。



今年の「国際こどもの日」のお祝い行事は全12ヶ所の「村の幼稚園」で予定通り行われましたが、クラブプル村だけ問題がありました。大きな木の下でゲームを行うはずが、木の上にあった巣にいた蜂がびっくりし、子どもと委員会メンバーと州の幼児教育担当者を刺したのです。蜂はまだ小さく、刺されても痛いだけで大事には至りませんでした。子どもがゲームで遊べないまま行事が終了しました。クラブプル村の「村の幼稚園」は昨年の11月に開園したので、残念な初めての「国際子どもの日」になってしまいましたが、来年以降はゲームを楽しめることを願っています。

CYR 情報

【40周年記念号】

2020年カレンダー「カンボジアの子どもたち」

今年もフォトジャーナリスト高橋智史さん、熊谷正さんのご協力、製作中です。メール又は電話・ファックスでご予約頂ければ、9月下旬の販売開始後、順次、ご郵送します。

グレゴリオ聖歌によるミサコンサート

“幼い難民を考える会”のために

主催 CANTATE DOMINO

日時 2019年12月21日(土) 18時より

場所 聖心女子大学聖堂 渋谷区広尾 4-3-1

会費お振込み・活動へのご支援は、下記までお願いいたします。

郵便振替 00110-8-36227

三菱UFJ銀行 六本木支店(普通) 1351747

特定非営利活動法人幼い難民を考える会

子どもたちの明日 127号

発行日：2019年7月31日 発行者：牛場 輝夫

特定非営利活動法人幼い難民を考える会

東京事務所 (CYR)

〒110-0016 東京都台東区台東 1-12-11 青木ビル 2A

TEL: 03-6803-2015

FAX: 03-6803-2016

Email: info@cyr.or.jp

URL: <http://www.cyr.or.jp/>

プノンペン事務所 (CYK)

#170, St.63, Boeung Keng Kang I, Khan Chamkarmorn, Phnom Penh, Cambodia

TEL: (+855) 23 210849

FAX: (+855) 23 210849

Email: info@cyk.org.kh

URL: <http://www.caringforyoungkhmer.org/>

幼い難民を考える会 (CYR) は認定 NPO 法人です。
ご寄付は税制優遇措置の対象となります。